

■新しい建物の修景基準の解説

平野郷地区内では、新しい建物が徐々に増えています。こうした新旧の建物が混在する中、新しい建物についても、伝統的建物の良さを活かし、建物の高さや配置、屋根形状、そして意匠や色などを工夫することで、平野郷らしいまちなみとして調和を図っていくことが大切です。

素材・色彩

新しい建物

基準

自然素材を優先するが、やむを得ない場合、色合いや材質など周囲に違和感のない建材を用いる。また、無彩色やおちついた色彩が基調となるようにする。つやなしを基本とする。

伝統的建物の素材・色彩の良さを活かし、これらとの調和を図ることで連続感・一体感のあるまちなみが形成され、平野郷らしいまちなみをより印象づけます。

新しい建材を用いる場合は、光沢のない材料にするなど、材質や色彩についてまちなみになじむように選びましょう。



ショーウィンドウに鉄骨を用いた例。
新しい素材を使う場合は、色などに配慮してまちなみになじませます。(京都市)

※建築基準法による制約がありますので、ご相談下さい。

配置

新しい建物

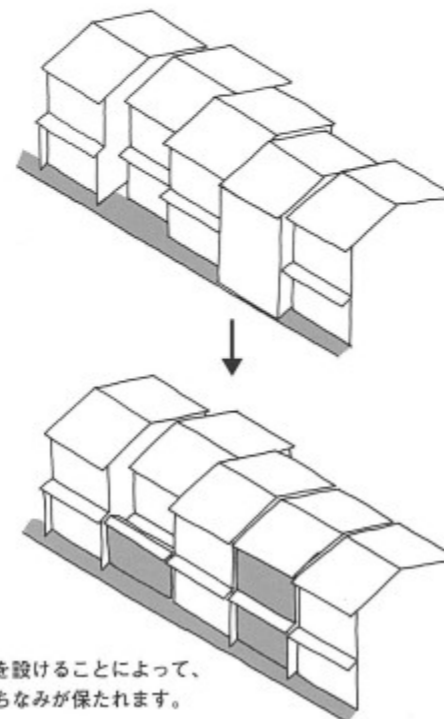
基準

道路境界から少し控えた位置に、間口ほぼいっばいに壁面または塀を設ける。

この地区の多くの町家は、道路の境界から1~1.5mの位置に壁を設け、1階と2階で位置を変えない様式が一般的です。

前庭や駐車場により建物を後退させる場合は、連続性を保つための塀などを設ける工夫が大切です。

一人ひとりの配慮で、まちなみがつながります



壁面線を揃えたり、塀を設けることによって、美しい連続性のあるまちなみが保たれます。

高さ・屋根

新しい建物

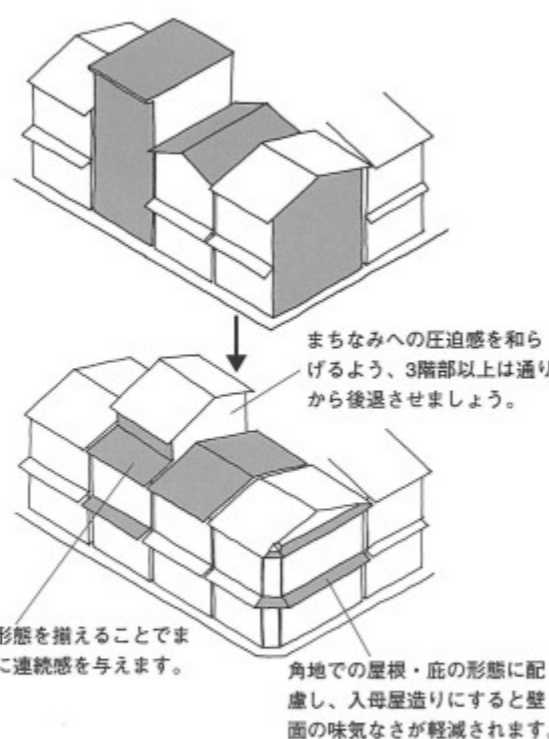
基準

高さについては、道路に面する部分は2階までとし、3階以上は道路より後退する。屋根については、道路に面する部分は切妻、平入りとし、和瓦葺き・伝統的な屋根勾配(4寸5分~5寸)を基本とする。また、角地では入母屋造りを推奨する。

高さは周囲になじむよう配慮し、伝統的な平入り勾配屋根としましょう。

伝統的建物は、2階建までのものが多く、また和瓦葺きの屋根や庇の勾配が揃うことで、美しく連続性のある平野郷のまちなみが形成されています。

ふとした場所から見える瓦屋根のつらなりも平野の美しさのひとつです



まちなみへの圧迫感を和らげるよう、3階部以上は通りから後退させましょう。

屋根の形態を揃えることでまちなみに連続感を与えます。

角地での屋根・庇の形態に配慮し、入母屋造りにすると壁面の味気なさが軽減されます。

祭りちようちんが似合うまちなみ

壁面・開口部

新しい建物

基準

町家に見られる形態・意匠を活用する。大きな壁面はつくらない。

地区の標準的な町家の間口は5間前後、長屋の場合では約2~3間です。伝統的建物の壁面自体も格子などによって細やかな凹凸が付加され、柔らかなリズム感のあるまちなみが形成されています。

● 伝統的町家の美しいデザイン

右図のような町家は、2階壁面の横線や箱軒など、水平線を強調し建物を低く見せる工夫がされています。

また、高2階(上図)では大きな開口部、つし2階(下図)では虫籠窓とし、2階の壁面デザインのバランスがとられています。



目隠しや防犯、あるいは意匠として設けられた格子などによって細やかなデザインがまちなみに豊かな表情を与えます。



1階壁面は柱の線によりアクセントができ、開口部が分節化されます。

軒下空間

新しい建物

基準

1階部分に庇を設置し、軒下空間を確保し、伝統的な土間仕上げ及びしつらいを心がける。

深い庇を設置することによって、まちの連続性を保ちます。軒下空間はまちなみを印象づける大切な空間です。伝統的なしつらいの意匠を応用したり、土間仕上げに気を配るなど、まちなみを演出する工夫を心がけましょう。

建物をつなぎ人と人をつなぐ大切な空間です



軒下でのおしゃべりも生まれそう

